

発展が続くバングラデシュの今後の展望と 日本とのビジネスチャンスについて

モムタズ ブイヤン

バングラデシュ投資庁 (BOI) ミッションメンバー

NewVision Solutions Ltd. 会長

1. 始めに：

バングラデシュは 1 億 6 千万人の人口（内 15 歳以下は 34.3%）を抱える南アジアに位置し、今後も発展が見込まれる国です。

バングラデシュは北緯 23 度（台湾と同じ緯度）に位置しています。東京からダッカまでの直行距離は 4,768.4km で東京-バンコクの 4,605.8km よりも 162km 遠いだけです。それに東京-シンガポールの直行距離は 5,294.53km で東京-ダッカ間よりも 511.13km 遠く、東京-ジャカルタは 5,786km で東京-ダッカのそれより 1017.6km ほど遠くなっています。ですから、東京-ダッカ間の直行飛行時間で言うと、6 時間程度の距離となります。



多くの日本の人々はバングラデシュはとても遠い（南の）国と思っていますが、実は上記のようにそれほど遠くはないのです。

バングラデシュは主にイスラム教（90%）の国ですが、太古から調和の取れたコミュニティを保っており、国民はそれぞれヒンズー教徒、仏教徒そしてキリスト教徒とも昔から平和を維持して生活しています。

バングラデシュには仏教が最も繁栄していた頃 8 世紀に建てられた古い仏教遺跡がパハルプール、マハスタンガール、マイナマティに残っています。これらは偉大な仏教祖アティシュ・ディパンカールが仏教の教えを広げるため、バングラデシュからチベットへ行った際に造られました。

イスラム教の国でありながら、バングラデシュは異なった文化を持つ外国人と容易に交流することができ、とても穏やかな性質の国であります。特にバングラデシュ国民は独立戦争の際、日本から多大な協力を受け、その後日本は何の拘束もせず技術や金融協力を行ってくれましたことに未だ恩を感じ、バングラデシュの最大のパートナーとして日本人に好意を持っています。その上、大詩人タゴール、政治家スバシュ・チャンドラボース、そして裁判官パール等は分裂前のベンガル地域（この地域の 3 分の 2 が現在のバングラデシュとなっている）出身でバングラデシュは英領インドの時代から日本と友好関係を持っていました。

2. 国際専門機関の意見:

A. バングラデシュはネクスト 11（NEE）のひとつ

: ゴールドマン・サックス

<http://print.thefinancialexpress-bd.com/2013/11/18/4543>

2013 年 11 月 18 日

投資銀行ゴールドマン・サックスはバングラデシュ、エジプト、インドネシア、イラン、メキシコ、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、トルコ、韓国そしてベトナムの 11 カ国を 21 世紀のネクスト 11 として挙げています。世界銀行によるとバングラデシュでも他の NEE 諸国のように中間所得層の人口が増え、現在 3000 万以上に達しています。

B. PWC はバングラデシュが 2050 年には 23 番目の経済大国になると予想している。

<http://print.thefinancialexpress-bd.com/2015/02/16/81378>

2015 年 2 月 16 日

PWC のレポート「World in 2050」（世界 32 カ国を対象）では、購買力平価に関して、バングラデシュはベトナムに続き現在 31 位とランクされています。既に世界第一位の経済大国中国は 2035 年も 2050 年も 1 位の座を守り続けるでしょう。インドは 35 年後にはアメリカに替わり第 2 番目の経済大国となりそれにアメリカが続くと予想されます。そしてインドネシアが第 4 位、ブラジルが第 5 位と予想されています。

同レポートでは、2050 年にはバングラデシュが 23 番目に大きな経済国になると予想されています。

C. S&P バングラデシュを 6 年連続で「安定」と評価:

<http://www.dhakatribune.com/business/2015/may/14/sp-affirms-bangladeshs-rating-stable-sixth-straight-year>

2015 年 5 月 14 日更新

S&P バングラデシュの成長見込みを再確認：

http://zeenews.india.com/business/news/international/sandp-reaffirms-bangladeshs-rating-on-growth-prospects_48786.html

2012 年 6 月 1 日（金）

S&P 格付について、バングラデシュはインドに続き南アジアで第 2 位（BBB）に評価されており、スリランカ（B⁺）そしてパキスタン（B⁻）よりも上位にランクされました。その他 BB カテゴリーにはトルコ、フィリピン、インドネシア、そしてベトナムが含まれています。

また、バングラデシュはブラジル、ロシア、インドそして中国（BRICs）と並び 21 世紀の経済大国となる高い可能性のあるネクスト 11 のひとつであると「ポスト・クライシス:BRIC と N-11 のための長期予想」と題された報告でゴールドマン・サックスは報告しています。

「バングラデシュは BRIC と N-11 の中で唯一マクロ安定のための構成要素が改善された国であった。また政治状況が悪化しても携帯電話の普及率が非常に伸びるなど様々な理由から利益を生んでいる。」とゴールドマン・サックスは報告しています。

「第 2 グループからのバングラデシュ、エジプト、韓国、ナイジェリア、トルコそしてベトナムは期待通り大きく発展した」と報告されています。

D. ムーディーズはバングラデシュを安定した見込みで Ba3 と評価：

https://www.moodyys.com/research/Moodys-affirms-Bangladeshs-rating-at-Ba3-with-a-stable-outlook--PR_297036

ムーディーズはバングラデシュ経済の安定を見込み **Ba3** と評価しました。これを決定した要素は下記の長所を反映しています。

- a. 経済成長の健康的な見込み
- b. 政策改革の進展
- c. 対外債務への財政的安定

ムーディーズによるとバングラデシュの **Ba3** 外貨国債評価はマクロ経済の安定、外貨準備金が十分にあることから、対外援助の依存度は高いものの債務問題は発生していないと述べている。

3. 日本にとってバングラデシュが最高の投資先の1つである理由：

日本にとって、バングラデシュが魅力的な投資先である理由をここに5つ掲げてみましょう。

- A. 日本国内に潤沢なファンド：**日本は世界の3番目の大きな経済大国として皆から尊敬を受けています。投資資金となるファンドがあれば、バングラデシュのような可能性のある国へ、是非有効的になるべく早く投資した方が良いと思います。
- B. 友好的な国への投資：**日本は友好的な国に投資したほうが良いと思います。バングラデシュの親日性は他国に負けることはありません。このような国への投資を優先的に考えてはいかがでしょうか？
- C. 人口が増えている国：**日本は日々マーケットが拡大し、商品に対しての需要が増加を続けていくような、人口が増えている国に投資するべきです。
- D. 人口の多い国：**日本は比較的人口が多く、対日感情の良い国に投資するべきです。このような国では、国内の需要が大きく投資は実を結びます。
- E. アジアでの投資：**日本は感情や文化が近く類似しているアジア諸国に投資するべきです。日本は世界一の経済大国であったアメリカとビジネスをし成功しましたが、これから将来、経済的な成功は成長するアジア諸国への投資次第と考えられます。

これらの5つのポイントを考慮し、バングラデシュは日本の投資と成功のために最も適切な国の一つであると考えます。

4. バングラデシュ政府によるサポート：

これらのポイントの他に、バングラデシュは外国の投資に便宜を図るため多くのサポートを準備しています。バングラデシュは外国投資を引き付けるためには工

業要地が不足していますが、政府はハイテクパーク、特別経済地区（SEZ）の開発に現在着手しております。現在、制度や多様なインセンティブが投資庁（BOI）、特別経済地区（SEZ）そしてエネルギー省およびバングラデシュ商工会議所（FBCCI）によって検討されています。

5. より多くの日本からの投資に対する情熱：

バングラデシュは非常に早く成長し続けていますが、インフラの未整備、電力不足などビジネス上の課題もあります。これらに対しバングラデシュは先進国特に日本からの巨大な技術/財政援助を必要としています。バングラデシュはエネルギー、輸送及びコミュニケーション、浚渫のようなインフラ開発、農業そして産業部門全体に援助を必要としています。日本の大手会社は大規模パワープロジェクト、LNG ターミナル、深海港、原油精製、石油化学プロジェクト、バス/トラック/自動車、鉄道浚渫機、合成紡績工場、造船業、製薬業そして金融部門などのような分野での投資に大きなチャンスがあります。また中小企業（SME）も様々な産業分野で投資の機会をつかむことができます。日本政府としても、海外で適切な投資に対する大きな関心を持っている日本の中小企業に対し、ジェトロをはじめとする政府機関と一緒にサポートを行っています。バングラデシュで日本の中小企業進出のための土地が不足している件も、両国政府と民間のイニシアティブで解決することができます。

もし日本のパートナーが技術や財政援助をしてくれるのであれば、現在大きなプロジェクトを行うことに興味を持っている大手のバングラデシュの会社はいくつかあります。日本の会社に対する信頼はとても高いのです。

日本政府も、日本の中小企業の活動に資する計画であれば、両国政府間で適切な協力を手配するでしょう。日本政府のこのような動きは大変有益です。

最近北欧の国々がバングラデシュに投資することにとっても興味を示しています。グラミン・フォンはバングラデシュでのスウェーデンの投資の成功例であります。その上、インド、中国も大規模なプロジェクトの実施と共に投資計画を行っています。アメリカや日本では、むしろ治安状況への懸念がクローズアップされがちですが、多くの国々はバングラデシュに投資を行いにやって来ています。実際のところ、JICA やジェトロを通じた日本による協力は滞りなく行われ、投資の機会を模索するためにバングラデシュを訪問する日本企業も戻りつつあります。

現在バングラデシュでの外国投資の環境は良好と我々は考えています。現在政情は安定しており、バングラデシュ自国での基金で行っているパドマ橋（30 億ドル相当）、JICA 基金による 1,300MW マタルバリ火力発電所（40 億ドル相当）、JICA 基金によるダッカ・メトロ・レールプロジェクト（28 億ドル相当）を含め

いくつかの巨大プロジェクトの開発作業が多く行われ、その他、橋、道路などの様々な多くのインフラ開発作業が行われています。バングラデシュの経済は過去10年にわたり6%以上というとても速い割合で成長しており、これからもっと早い割合で成長していくものと期待されています。

バングラデシュの国民と政府は日本の絶え間ない援助と協力に感謝しています。しかしバングラデシュは合弁会社か、100%日本系の会社という形でもっとも日本からの投資を望んでるのです。例えば、バングラデシュに進出した日本企業は、大規模なインド市場に100%免税で彼らの製品を輸出する機会を持つことが可能です。バングラデシュを基点とした、アジア地域大のビジネス可能性もあるということもここに付け加え述べておきます。様々な部門で日本が適切な投資を本気で考えるときが来たと我々は信じています。日本からのバングラデシュへの投資が中国、アセアン諸国のように活発になる日はそれほど遠くないと私は信じます。

バングラデシュでのお問い合わせ：

Momtaz Bhuiyan

Chairman

NewVision Solutions Ltd.

Plot # 97/A (6th & 7th Floor), Road # 25

Block # A, Banani,Dhaka 1213, Bangladesh.

Phone: [+880-2-55035347](tel:+880255035347)

Cell: [+88 01714 011721](tel:+8801714011721)

E-mail: mbhuiyan19@gmail.com

mbhuiyan@newvision-bd.com

Web: www.newvision-bd.com

私は1970年代に日本に留学（大阪大学、東京大学院卒業）した際から日本と関係が深くなりました。バングラデシュのBOIの長官はその頃からの友人のため、今回このセミナーと一緒に考えました。